



TITLE:

最近の露國組合運動

AUTHOR(S):

岩城, 忠一

CITATION:

岩城, 忠一. 最近の露國組合運動. 經濟論叢 1926, 23(6): 1035-1039

ISSUE DATE:

1926-12-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128476>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號 六 第

卷三十二第

行發日一月二十年五十正大

論 叢

足利時代の通商貿易

教授 文學博士

三浦 周行

家屋税の本質

教授 法學博士

神戶 正雄

表定運賃論

教授 經濟學博士

小島 昌太郎

時 論

英國勞働黨の農政方針

教授 法學博士

河田 嗣郎

說 苑

マックス・ウェーバーの政策論の根本概念

講師 經濟學士

藤田 敬三

露西亞に於ける農政改革とその效果

講師 經濟學士

吉川 秀造

雜 錄

領主擁護の農民騷動

教授 經濟學士

黑 正 巖

民文に就きて

教授 法學博士

財部 靜治

美濃名森村の地割制度

教授 經濟學博士

木庄 榮治郎

サミュエル・ベイヤリー

講師 經濟學士

森 耕二 郎

法 令

健康保險法施行令・外國人土地法施行令

和歌山高等商業教授 經濟學士

岩城 忠一

附 錄

本誌第二十三卷總目錄

トトミアンツ教授の『露國組合運動』*に基いて、ソヴィエット・ユニオンに於ける組合運動の近狀の一斑を窺ふのを、目的とする。

ソヴィエット・ユニオンに於ける近時の組合運動は、注意すべき、力強い、然し奥深くといふよりもむしろ幅廣く成長しつゝある運動であつて、勞農政府と密接に聯絡し、且つその支持を受けて居る。例へばかの Zentrosjus (消費組合全露中央聯合會)の會長は、人民委員評議會に於いて評議權を享有して居るのであるが、更にそれよりももっと重大な事は、組合の中央聯合會が外國貿易の獨占を、一定の程度迄、政府と共有して居る點である。なほ、組合は政府の支持を受けては居るが、純然たる金錢上の扶助は餘り大きくはないのであつて、昨年度に於ける補助金額は二千九百萬金貨ルーブルであつた。

現今の全露組合運動は、自助といふ點では、革命前よりも微弱になつて居る。即ち一九二三年に於いては一組合員は平均五ルーブルの資本の持分を有して居たが、現今では精々この金額

最近の露國組合運動

岩城忠一

この小文は、『ゲゼルシャフト』の本年九月號に掲載された

雜錄

最近の露國組合運動

第二十三卷 (第六號 一五五) 一〇三五

* Prof. Dr. V. Totomianz, Die russische Genossenschaftsbewegung („Gesellschaft," Sept. 1926)

の半分である。それにも係らず組合運動は今日、一九一三年に於けるよりも、否一九一七年

に於けるよりも、遙に大なる役目を演じて居る。さうして近頃は地方の組合に對して殊にさうである。

而してこの事は、第一、私取引に打撃を加へたかの國有化によつて、第二、レーニン及び共產黨が組合運動を以て共產主義或は社會主義到達の爲の重要手段であると宣布し、且つ組合運動に力を集中したことによつて、第三、國民自身が國家の方策の威力を以前程には強く信じなくなり、既に戦前に與へられた組合といふ手段を、再び熱心に用ゐるやうになつたことによつて、説明される。勿論、組合運動に力を集中せよといふレーニンの叫びに全政府及び凡ての共產黨員が従つたとは言へないのであつて、彼等のうちの少なからざる部分は國營業の支持者で、國營業が大なる利害關係を有しない場所だけを消費組合に委ねるといふことも屢々であつた。又、組合と國營業との間に衝突が起ることも稀しくない。然しそれにも係らず、大體に於いて、政府は組合運動に對して大に好意を有し

て居る。今日の露西亞の經濟生活上に演じて居る大なる役割は、次の事實のうちから觀取され得る。即ち一九二四—五年度に於ける消費組合の取引はソヴィエット・ユニオンの全取引の二〇% (二十五億金貨ルーブル) を構成して居る。國營取引は一九二三—四年度には三八%、同年度に於ける私取引は四三・九%であつたが、私取引は一九二四—五年度には三五・九%に落ちた。これは私取引が消費組合によつて驅逐されつ、あることを明かに示して居る。なほ國營取引も一九二四—五年度には三六%に減じた。

消費組合全露中央聯合會 (Zentrosojus) の役割も、以前よりは遙に顯著になつて居る。一九二三—四年度に於けるツェントロンユズの上高は二〇二、七七七、〇〇〇金貨ルーブルであつたが、一九二四—五年度の四分の三期の上高は既に二二六、〇二三、〇〇〇金貨ルーブルに上つて居る。なほ一九二三—四年度の四分の三期に於

けるツェントロツェズの輸出は二九、五〇〇、〇〇〇金貨ルーブル、輸入は一六、四〇〇、〇〇〇金貨ルーブルであつた。

一九二四—五年度の半年に於ける、ソヴィエツト・ユニオンの地方消費組合の總數は二一、〇〇〇で、組合員數は約四百萬、上高は四億二千萬金貨ルーブルで、一組合員の平均的持分資本は約二ルーブルであつた。都市消費組合の總數は、一九二五年五月一日には、一、五七七で、組合員は三、五六一、九〇八名、總上高は一九二四—五年度の半年に約三十五億金貨ルーブル。そのうちウクライナの消費組合に屬する分は五億ルーブルで、ウクライナ消費組合聯合會(Укряїнська спілка)の昨年度の上高は千八百萬金貨ルーブルであつた。

次に農業方面の組合を一瞥するに、一九二五年一月一日には、農業購買及び販賣組合五八〇〇、組合員四二六、六五〇名、信用機能を有する農業組合及び信用組合七一五〇、組合員一、五二三、一五〇名、共同耕作組合四九二五、組

合員一一三、九五〇名、酪乳、バター及びチーズ組合三三〇〇、組合員二九一、五〇〇名、其他の農業組合二三五〇、組合員二三八、五〇〇名、家内工業及び林業組合一四七五、組合員六六、二五〇名、總計二五、〇〇〇の組合と、二、六五〇、〇〇〇名の組合員がある。なほ農業方面の組合の總上高は、一九二三—四年度には、五億八千萬金貨ルーブルであつた。

農業的生産組合のなかに算へることの出来る一つの甚だ特色ある形體は、露西亞に於いて現今非常に普及して居る漁夫組合である。これは既に戦前に存在して居たが、當時は一向振はなかつた。所が一九二三年七月一日に漁夫全露組合聯合會が創立されて、一九二四年十二月十七日には、二六の地方聯合會、四七〇の組合、及び三五、五五九名の組合員を包括するにいたつた。さうして聯合會は海洋及び河川を有利な條件で國家から賃借することに成功した。

露西亞の組合の種類のうちで最も注意すべきものは獵夫組合であるが、これは戦前には無く

て、一九二四年以來初めて普及したものである。この組合形體が國家の補助なしに發達したことも特記すべき事柄である。獵夫全露組合聯合會は、一九二四年十月一日には、七七五の獵夫組合、約六〇の地方聯合會、二五〇、〇〇〇名の組合員を包括して居る。なほ聯合會は現今、店舗四五、倉庫二三、小銃修繕所一二、工場六を有して居る。さうして全ソヴィエツト・ユニオンで二千萬金貨ルーブルに達する毛皮生産のうち、獵夫組合に屬する分は二百五十萬金貨ルーブルである。

以上は農業方面に關するものであるが、農業的生産以外の範圍に於いても、進歩の跡を確め得る。

組合的生産は、消費組合に従屬せざる生産組合の形に於いて組織されたが、資本主義に對する政府の闘争は、家内工業の復活に、且つそれと關聯して、家内工業的組合生産に導いた。

この種の生産組合の上高は、一九二三—四年度には、二億四千萬金貨ルーブルに達した。さ

うしてこれ等の生産組合の生産物は、金屬貨物、皮革、長靴、單靴、及び氈靴、並に編細工品、木材貨物等である。これ等の生産組合はそれら専門の聯合會に編入され、且つ一つの全露聯合會をモスコで構成して居る、一九二四年一月一日には、全ソヴィエツト・ユニオン内に六〇〇〇の生産組合、三〇〇、〇〇〇名の組合員を算し、一九二五年一月一日には生産組合八五〇〇、組合員三五〇、〇〇〇名が存在した。そのうち五〇〇の組合はいづれかの聯合會に編入され、聯合會の數は二五九に達した。

輸出に關しては、現今ソヴィエツト・ユニオンの組合聯合會の凡てが、戰前に於けるよりも遙に大なる役目を演じて居る。シベリア酪農組合聯合會のバターの輸出は今では戰前の額に達した。さうして現今組合で輸出する商品は、バターの外には、穀物、亞麻、大麻、木材貨物、毛皮貨物、醃鰯、卵等である。

外國貿易は國家の獨占であつて、私取引は全然外國貿易から除外されて居るから、國營取引

が輸出では最大の役目を演じて居ること勿論である。然し組合聯合會も商品輸出の權利を享有して居るから、消費組合全露聯合會（Zentrrosojus）農業組合聯合會（Seliskosjus）並にウクライナ消費組合聯合會（Yukosjilka）は歐米の主要都市に支店を有して居る。

なほ序に二つの組合銀行があることを指摘して置きたい。即ちその一つは、戦争の直前に創立され現今ロンドンに所在するモスコー庶民銀行で、他の一つは、モスコーに所在する社會主義ソヴィエット共和國聯邦中央組合銀行これである。

ソヴィエット・ユニオンに於ける組合運動の近狀は大體以上の如くであるが、ソヴィエット・ユニオンの組合は、上述の如き明るい一面と共に、暗い一面をも有して居る。そのうちから特に次の三者を擧げて置く。曰く、資本の不足。曰く、組合の役員選舉に際して、共產黨が黨の立脚點からして過大なる干渉を及ぼすことが屢々あること。曰く、組合の多くの事務員特に店

舗の被傭人の不正行爲。尤も不正行爲の打滅は、現今甚だ熱心に實行され、ツェントロソユズの機關新聞（日刊）『組合の道』は、『横領』といふ見出しの下に、絶えず不正行爲の摘發を行つて居る。（この日刊新聞は、凡ての種類の組合を結合し且つ全ユニオンを包括して近頃出來た全露組合評議會の機關となり、現今の名稱は『組合生活』となつて居る）。

なほ最後にソヴィエット・ユニオンの組合運動を、他の諸國のそれと比較してみるに、ソヴィエット・ユニオンの組合運動は、組合及び組合員の絶對數に於いては、筆頭であるが、上高及び特に消費組合生産に關しては、英國組合運動の下位に立つて居る。